

## まぼろしの名城 相良城

相良城は、牧之原市相良を流れる萩間川河口の右岸にあった近世城郭です。広さは、東西500メートル、南北450メートルで、天守はなく、代わりに本丸御殿と三重櫓が築かれていました。

城主は田沼意次侯で、約12年の歳月をかけて安永9年（1780）に完成しました。しかし、意次侯が失脚すると、天明8年（1788）に幕府の命令で取り壊されてしまいました。

主な遺構として、般若寺に残る杉戸があります。本丸御殿の襖戸と伝えられています。



牧之原市指定文化財「相良城の杉戸」（般若寺所蔵）

## 田沼のまち“まきのほら”

牧之原市には、田沼家ゆかりの史跡や文化財が数多く残されています。意次侯から厚く崇敬された平田寺や大江八幡宮などの寺社、相良から川崎を経て藤枝へと至る田沼街道、海運業の繁栄を伝える市内4カ所の御船神事などです。また、江戸時代から続く商店もあります。皆さん、ぜひ訪ねてみてください。そして、田沼家の足跡をたどってみましょう。



国指定重要無形民俗文化財「大江八幡神社の御船行事」



意次情報はこちら！  
意次ドットコム

# 相良城下

えんしゅうさがらはんしゅ  
遠州相良藩主 田沼意次侯

さがらじょうか



貝塚市指定文化財 要家文書「相良城下町絵図」（個人蔵）

西暦	和暦	田沼意次侯の履歴	主な出来事
1719	享保4	田沼意次侯出生。幼名龍助。	
1735	享保20	父・意行死去。知行600石を相続し、元服する。	享保の改革
1745	延享2		家重、9代将軍就任
1747	延享4	御用取次見習に就任。翌年、2000石へ加増。	
1751	宝暦元	御用取次に就任。4年後、5000石へ加増。	
1754	宝暦4		美濃郡上一揆の発生
1758	宝暦8	美濃郡上一揆の審理に出席し、事件処理に尽力。遠江相良1万石の大名となる。【40歳】	田沼の改革（田沼時代）はじまる
1759	宝暦9	領内に養蚕と桑、漆木などの栽培を奨励する。	
1760	宝暦10	御用取次に留任。大江八幡宮に神輿・馬具（市指定）を寄進する。翌年、1万5000石へ加増。	家治、10代将軍就任
1763	宝暦13		俵物の生産奨励
1767	明和4	側用人に就任。遠江相良に築城を命じられる。翌年から着工を開始。【49歳】	鉱山開発の奨励
"	"	般若寺の陣太鼓（市指定）が製作される。	
1769	明和6	側用人兼務の老中格に就任。2万5000石へ加増。	株仲間の公認が進む
1772	安永元	側用人兼務の老中に就任。3万石へ加増。	南鐐二朱銀の発行
1774	安永3		『解体新書』刊行
1776	安永5	萩間川に湊橋（現在の港橋）を架橋する。	平賀源内、エレキテルの操作に成功する
1779	安永8	相良城下の町家に屋根葺替（板or瓦）を命じる。	
1780	安永9	相良城が完成する。見分のため、4月13日から23日まで10日間滞在。【62歳】	鉄座、真鍮座の設置
1781	天明元	4万7000石へ加増。	
1782	天明2	菅ヶ谷の華蔵院に大般若経を寄進する。	印旛沼干拓工事 この頃より、天明の大飢饉がはじまる
"	"	家臣の大村新左衛門が男神に筆塚（市指定）を建立する。	
1784	天明4	嫡子の意知が佐野善左衛門に斬られ死去。	
1785	天明5	5万7000石へ加増（最大の石高）。	蝦夷地調査団の派遣
1786	天明6	平田寺本堂（市指定）を再建する。	『海国兵談』完成
"	"	老中辞職。20,000石の没収と謹慎を命じられる。	将軍家治の死去
1787	天明7	相良城と27,000石の没収、隠居を命じられる。1万石は孫の意明が相続（陸奥国下村へ転封）。	
1788	天明8	江戸で死去。駒込勝林寺に葬られる。享年70歳。	松平定信の老中就任 寛政の改革はじまる
1791	寛政3	大澤寺本堂（市指定）の完成。相良城の木材を一部転用して建立される。	



アクセス(史料館)  
■ 静岡駅よりバス「特急静岡相良線」相良本通下車 徒歩5分  
■ 東名相良牧之原ICより車で15分 ※駐車場あり

編集・発行 牧之原市教育委員会  
T421-0592 牧之原市相良275 TEL0548-53-2646

## 遠州相良藩主 田沼意次侯

今から230年以上前の江戸中期、相良藩主として現在の牧之原市周辺を治めていたのは、幕府の側用人・老中を務めた田沼意次侯でした。

「田沼意次」の名を聞くと“わいろ”のイメージが思い浮かびます。しかし、実際は、株仲間の奨励や外国貿易の拡大、貨幣の統一など商業重視の政策によって、財政再建を図った改革者でした。また、状況に応じて儉約令や予算制度も取り入れる優れた財務家でもありました。

その手腕は、相良藩主としても発揮され、港や街道などのインフラ整備、製塩や養蚕などの殖産興業が行われました。この結果、領内の産業や流通が活性化し、人口も増加しました。地元では、牧之原市の基礎を築いた名君と高く評価されています。



田沼意次侯肖像

(牧之原市史料館所蔵)

## 田沼意次侯(1719-1788)の略歴

意次侯は、享保4年（1719）、8代将軍徳川吉宗の側近・田沼意行の長男に生まれました。

秀才の評判高く、16歳のとき、徳川家重の小姓に登用。宝暦8年（1758）には、美濃郡上一揆を解決に導いたことで、遠州相良藩1万石の大名に取り立てられました。

10代将軍家治の代になると、側用人・老中を歴任。商業資本を積極的に利用する大胆な政策を実施し、幕府財政を好転させました。

しかし、天明年間に入ると、相次ぐ天災で財政が悪化。嫡子の意知が殺害されるなど不運が続き、天明6年（1786）に失脚します。そして、2年後の天明8年（1788）、70歳（数え年）でこの世を去りました。東京都豊島区駒込の勝林寺に葬られました。

### ① 牧之原市史料館



本丸跡に建つ史料館です。田沼家の資料を展示しています。本丸には、かつて立派な御殿が建っていました。

### ② 二の丸のマツ



現在、二の丸跡には相良小学校があります。マツの土台は、二の丸を囲んだ土塁の一部といわれています。

### ③ 仙台河岸



相良城の石垣が残る場所。仙台藩主の伊達家が石を寄進したと伝えられ、名称の由来になっています。

### ④ 平田寺



田沼家の香華寺。本堂は、天明6年(1786)の再建で、田沼家専用の玄関を備えた風格ある建物です。



『相良城・城下割』概要図 (作図: 松下善和 2019)

### ⑤ 根上りマツ



昔の海沿いには、強風や高潮から町を守る土手と松林がありました。根上りマツや陣代山はその名残です。

### ⑥ 浄心寺



田沼家の祈願所。田沼家寄進の御曼荼羅が寺宝です(非公開)。山門の龍は、寛政元年(1789)の作です。

### ⑦ 大澤寺



本堂は、寛政3年(1791)の建築。相良城の木材を再利用したと伝えられています。床下に痕跡が残ります。

### ⑧ 般若寺



田沼家ゆかりの宝物「陣太鼓」と「相良城の杉戸」を所蔵する寺院です。本堂に展示されています。



相良城下案内図

相良城の案内